



Japan Association for Diabetes Education and Care

世界糖尿病デー2016 JR 東日本 山手線で糖尿病啓発の車体広告を展開

2016年11月8日

公益社団法人日本糖尿病協会

公益社団法人日本糖尿病協会（理事長：清野裕／関西電力病院院長 所在地：東京都千代田区）は、11月14日の世界糖尿病デーを含む11月7日(月)～19日(土)の13日間、JR東日本 山手線の車両を利用して、糖尿病の啓発活動を実施します。山手線の車両を利用した啓発広告は、本年度で2回目となります。



※写真はイメージ画像で、実際とは異なる場合があります

世界糖尿病デーは、国際連合が「糖尿病の全世界的脅威を認知する決議」を2006年に採択したのを契機に公式に制定されました。決議採択を働きかけた国際糖尿病連合（IDF：International Diabetes Federation）は、ブルーサークルをシンボルマークとして、世界規模での啓発活動を展開しています。日本国内でも日本糖尿病協会と日本糖尿病学会が連携して世界糖尿病デー実行委員会を組織し、毎年11月14日を中心に、各地の著明な建造物をブルーにライトアップして世界糖尿病デーの認知度向上に努めています。

こうしたライトアップに加えて、日本糖尿病協会では、大正富山医薬品株式会社の協力を得て3年前から鉄道車両を利用した啓発広告を実施しています。昨年はJR西日本 大阪環状線で実施しましたが、今年は世界糖尿病デー10周年を記念して、首都東京での展開となりました。

PRESS RELEASE

糖尿病は、血糖値が慢性的に高くなる病気で、子どもから高齢者まで、どの年代の人にかかる可能性があります。日本糖尿病協会では、今年の啓発テーマを「健康長寿」に設定し、糖尿病を持っていても、適切な自己管理により一病息災の長寿を実現できることを啓発しています。今回の車両広告もその一環として様々な世代に向けた情報発信ができることを目的に実施します。

日本糖尿病協会理事長で世界糖尿病デー実行委員長も兼任する清野裕(せいのゆたか)は、次のように述べています。

「世界糖尿病デーの啓発活動を始めて今年で10年。この間、糖尿病予備群の数は初めて減少に転じましたが、患者数は引き続き増加傾向にあります。特に就労世代の糖尿病の放置、治療中断は合併症発症の危険性が高まり、生活の質の低下をもたらします。そのため、今年からは1人でも多くの就労世代の方々に糖尿病に意識を向けていただこうと、山手線を利用した啓発活動を行うことにいたしました。

適切な治療は合併症を予防し、生活習慣の改善につながります。糖尿病から逃げずに、ぜひプラス思考に転じて治療に向き合っていただきたいと思います。」

日本の糖尿病患者数は約950万人、予備群は約1,100万人と推計されています^(※1)。また、人口に占める糖尿病患者の割合は男性が16.2%、女性が9.2%となりました^(※2)。

日本糖尿病協会は、この状況を打破するため、世界糖尿病デーをはじめ、様々な機会をとらえて、糖尿病の発症予防や合併症の進展抑制を目指す活動を行って参ります。

(※1) 厚生労働省 平成 24 年「国民健康・栄養調査結果」

(※2) 厚生労働省 平成 25 年「国民健康・栄養調査結果」

【「世界糖尿病デー啓発車両」運転概要】

期間：2016年11月7日（月）～11月19日（土）

※運転期間は予定であり、変更・中止となる場合があります

内容：1編成11両の車体外部に世界糖尿病デーポスターを掲示

周回数：11～19周／日（最多は11月12日（土））

（ご注意） 本件に関し、JR 駅社員・乗務員へのお問い合わせはご遠慮ください。

★世界糖尿病デー関連の情報⇒「世界糖尿病デー公式ホームページ」www.wddj.jp

◇本件に関するお問い合わせ◇

公益社団法人日本糖尿病協会 担当：堀田

〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-2-4 8F

TEL : 03-3514-1721 FAX : 03-3514-1725 email : hotta@nittokyo.or.jp